

授業科目名	【Gカリキュラム】 - 【EFカリキュラム】 特殊講義（国際組織法Ⅱ）	選択	開講年次	【G】 - 【EF】 3	単位数	【G】 - 【EF】 2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-） / 【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	国際連合の活動と法			担当者	青木 隆	
授業概要	<p>【概要】</p> <p>この科目では、国際組織法Ⅰにおいて学ぶ国連の静態を踏まえて、国連の実際の活動について、特に国際社会の平和と安全の維持を任務とする安全保障理事会の動向を中心に講述します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>国連特に安保理事会による紛争や事態の処理に理解を深める。</p>					
履修条件	『国際法Ⅰ及びⅡ』を履修し単位を修得していること。加えて『国際組織法Ⅰ』との並行履修が望ましい。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>本講の内容に適した「教科書」は出版されていないので、特定の書籍を指定しません。国際連合憲章（学習用六法に掲載）の条文が必要です。</p> <p>【参考書】</p> <p>初回の講義にて解説したうえで、進行に応じて指示します。</p>					
授業回数	授業内容					
1	序：参考文献、授業の内容や取り組み方の詳細など 予習：このシラバスを通読して疑問点を探す		復習：疑問の解消を確認する			
2	憲章規定の再確認：安保理の任務と権限 予習：憲章第5章の通読		復習：総会と安保理との権限配分を理解する			
3	国際社会における法と力 予習：憲章第7章の通読		復習：安保理の「権力」について理解する			
4	冷戦と安保理の機能麻痺 予習：冷戦の意味を調べる		復習：超大国と拒否権について理解する			
5	平和のための結集：総会との関係 予習：朝鮮戦争を調べる		復習：決議の位置づけを確認する			
6	平和維持活動 予習：PKOの意味を理解する		復習：多様性を把握する			
7	中東問題と国連安保理 予習：パレスチナ問題を調べる		復習：国連の関与について把握する			
8	「湾岸戦争」と国連安保理 予習：イラクのクウェート侵攻を調べる		復習：措置の進行を理解する			
9	武力行使容認 予習：決議の通読		復習：意義と実態を把握する			
10	「イラク戦争」における国連安保理 予習：前2回のノートを確認する		復習：両戦争と安保理の対応を理解する			
11	「ユーゴ紛争」と国連安保理 予習：ユーゴ紛争を調べる		復習：設置された法廷の実態を理解する			
12	国際刑事法廷 予習：東京裁判、ニュルンベルク裁判を調べる		復習：旧ユーゴスラヴィア国際刑事裁判所を理解する			
13	ICCとの関係 予習：ICC 規程第2部の通読		復習：ICC と安保理の関係を理解する			
14	対テロと安保理の今後 予習：テロの意味を調べる		復習：2001年からの変容を理解する			
15	まとめ 予習：ノートを通読し、疑問点を探す		復習：講義の全体像を把握し、目標到達を確認する			
評価方法	原則として筆記試験（自筆ノート、配付資料及び条文のみ持ち込み可）の成績により単位認定および成績評価を行います。受講態度（10%程度）も加味する場合があります。					
評価基準	試験において講義内容を理解していることを示したと認められる答案には「A」（うち特に優れたものには「S」）、理解や表現に不足があるものはその程度に応じて「B」または「C」、設問または講義内容の理解が著しく劣るものはその程度に応じて「D」または「E」（ともに不合格）とし、これに受講態度（質問票への記述の量および質（試験の評価基準に準じる。）に基づく。）を加味して受講者の評点とします。未受験は「F」。					
その他	講義の進度を受講生の理解度や希望を勘案して調整しますので、学期中にすべての項目が扱えない場合があることをご了承下さい。 ※G 別：法【-】 疎【-】 情【-】 / EF 別：法【-】 疎【-】 経【-】					